

梅谷仏具店（福岡）・新工場完成

国産檜・杉を構造材とする明るい新工場
国産にこだわり、博多から発信される仏具作り



新工場（福岡市西区）の前で武田洋子社長 地藏菩薩の奥が事務・設計棟 奥の建物が工場



木地部門



下地塗装部門



研磨部門 吸塵設備も完備



中塗り・上塗り部門 熟練の職人が塗装を担当



箱押し部門



これまで数多く手掛けてきた消防団のまとい



漆塗り部門 取材で訪れた時は柿渋塗り



材料置き場 米ヒバを中心に持つ



清潔感のある工場内廊下 床面は杉材で温かみを演出



国産にこだわる梅谷仏具店新工場の構造材は 国産の檜と杉

梅谷仏具店の寺院仏具・納骨壇などを製造する新工場が昨年十二月に竣工した。

梅谷仏具店の寺院仏具工程をご覧になることができない工場に設計されており、清潔感のある明るい工場に仕上がっている。敷地は2126㎡、工場床面積は420㎡。

工場棟の内部は、木地部門、下地塗装部門、研磨部門、中塗り上塗り塗装部門、漆塗り部門、箔押し組立部門等に分かれ、それぞれの部門で働く総勢十六名の職人の様子が見学に来られることが多く、工場の中の様子を一目で分かる設計にしています。もちろん部門毎の工房内に入って頂くこともできるので

品を仕入れることが大半だ。自前の寺院仏具工場を持つ仏具店は少なく、梅谷仏具店ほどの自社工場規模となると、ごく僅かしかない。

木地部門では三名が活躍するが、この部門が最も広々としたスペースを持ち、さらには米ヒバ、檜、タモなどの材料

を在庫させる場所も持つ。塗装部門は水洗ブラスを有し、大型パーツの塗装も可能。漆塗り部門では漆以外に柿渋など特殊な塗装も行われている。九州の納骨壇市場は大きいですが、梅谷仏具店は自社工場を持つことで、仕様や寸法などお客様からの細かい要望に応じて来ている。また、祭礼用品も唐津の曳山の修理を手がけている。珍しいところでは、福岡市内の消防団の纏（まとい）修理の持ち、さらには米ヒバ、檜、タモなどの材料

「創業百四十年、法人化して五十年となりますが、お客様に満足して頂きそして支えて頂くため、拜む心で尊い品をモットーに、心を込めて一生懸命お仕事をさせて頂きます」と武田社長は強く語る。

新工場の構造材は、実は国産の檜と杉で作られている。鉄骨材で作られる工場が多い中、檜と杉、それも国産材を構造材とするケースは希だろう。檜も杉も工場でのプレカットではなく、施工の寿命は約六十年と言われ、鉄骨造りは四十〜五十年で劣化が激しくなり、現在寿命を迎えている建物が増えている例が多いとのこと。

設計の川崎建設構造設計事務所によれば、桁の最大長七・七メートルに、かかる屋根荷重を支えるために、二本の上下と中心に入るトラス構造にするので、標準サイズの材料によってのみ支えることのできる構造としている。

また、梁と柱頭を固めることで、柱と柱の間の壁が壊れても架構の粘り